# 国際交流ひろば ⑦

## ■日本の韓国ブーム 最終回

# 増える韓国語学習

アンニョンハセヨ！鳥取市国際交流員の張日榮（チャン・イルヨン）です。3回にわたってみなさんに日本の韓国ブームを紹介してきましたが。今回はその最終回として、増えている韓国語学習について紹介したいと思います。

### センタMB試験に韓国語

来年一月に実施される大学センター試験から、新たに「韓国語」が外国語の選択科目として加わることになり、韓国語や韓国文化への学習熱がこれまで以上に高まりそうです。大学のセンター試験科目で現在、実施されている英語以外の外国語科目はドイツ語、フランス語、中国語の三科目です。この三科目のなかでは中国語の受験者が若干増えており、昨年は二百八十人余りでした。ドイツ語は百五十人弱、フランス語も二百人弱でほぼ横ばいです。

では、「韓国語」の受験者数はどれくらいになるのでしょうか。「在日」の人口比からしても中国語をはるかに上回ると予想する声がある一方、二百人弱と慎重な意見もあり、見方は分かれています。慎重論があるのは、日本の高校で韓国語を学ぶ高校生が、文部科学省の調べで昨年七月現在、四千人足らずであるからです。

### 増加する韓国語教育

財団法人・国際文化フォーラム（TJF）がまとめた報告書『日本の公・私立高校で実施されている韓国語教育の実態調査』によると、現在、韓国語教育を実施しているのは全国の高校五千四百九十三校のうち、百七十一校（三％）で、年々増加傾向をたどっていることがわかりました。また、韓国語教育への取り組みも、一九八〇年代後半から増加傾向にあり、一九八七年から昨年までの統計では、年平均で九・四校の割合で増えてきています。調査の結果、韓国語教育の取り組みが確認できたのは三十六都道府県で、全高等学校の三％（公立高校：二・七％、私立高校：四％）が取り組んでいることが明らかになりました。

### 現状は初級レベル

しかし、韓国語の授業単位数は限られています。二～四単位が半数以上で、これは入門・初級レベルに当たります。入試のレベルに達する六～八単位以上の授業を保障している高校は少数です。さらに、生徒の学習熱を引き出す立場の現場教員のなかで、正規の韓国語教員免許状所有者は約半数に過ぎないとされ、残りの半数は臨時免許状などで教えているのが現状です。限られた学習時間内でも韓国語を学んだ日本の高校生が、韓国の高校生を相手に「通じた」との達成感を持たせ、今後の学習意欲につなげるためには韓国側の地道な努力が一層必要でしょう。

今回で日本の韓国ブームについてのお話は終わりです。ご愛読いただいたみなさんに心よりお礼を申し上げます。次回からもより充実した内容でみなさんにお会いしたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

**ハングルは、母音と子音の組み合わせでできています**